

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

| 学部・学科等の 名称 | 専任教員数 | | | | | | | | 非常勤 教員 | 専任教員 一人あたりの在籍 学生数 | 備考 |
|---------------|-------|-----|----|----|---|---------|-----------------------------|----|-----------|-------------------------|----|
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 基準 数 | うち理学 療法士又は 作業療法 士数 | 助手 | | | |
| 理学療法学科 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 6人 | 人 | 42人 | 12.8人 | |
| 計 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | - | |

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。 | 3 |
| | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。 | 2 |
| | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。 | 1 |

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する職員が担当している。 | 4 |
| | 9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 3 |
| | 8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 2 |
| | 上記以外である。 | 1 |

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| | 専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。 | 3 |
| ○ | 専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。 | 2 |
| | 専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。 | 1 |

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

| 分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門) | 指定規則 教育内容 | 相当授業 科目名 | 担当 コマ 数 | 担当教員 | |
|----------------------------|--------------------------|-------------|---------------|-------|---------------|
| | | | | 氏名 | 職名 (専任・兼任) |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 心理学 | 15 | 岩橋 由佳 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 日本語表現 | 15 | 福田 和子 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 人間関係学 | 15 | 大西 恵子 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | コミュニケーション論 | 15 | 平安 留女 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 統計学 | 15 | 坂本 邦弘 | 兼任 |

| | | | | | |
|------|--------------------------|-------------------------|----|--|----------|
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 生物学 | 15 | 滝口 素行 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 物理学 | 15 | 中山 純平 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 保健体育（実技） | 23 | 田中 真由美、 鈴木 裕子、田原 忠明 | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | 英会話 | 15 | 原田 レネー | 兼任 |
| 基礎 | 科学的思考の基盤・ 人間と生活・社会の理解 | ボランティア論 | 15 | 長畑 実 | 兼任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 解剖学Ⅰ (骨学・靭帯学・筋学) | 30 | 吉川幸次郎 柿本将平、石川慎二 | 専任 兼任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 解剖学Ⅱ (循環器学・内臓学・神経学) | 30 | 吉川幸次郎 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 解剖運動学 | 15 | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 体表解剖学 | 30 | 吉川幸次郎 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 生理学 | 30 | 橋本道男、松崎健太郎 山城安啓 | 兼任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 解剖生理学 | 15 | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 運動学演習 | 15 | 山本圭彦 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 運動生理学 | 15 | 淵上千年 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 基礎運動学 | 30 | 山本圭彦 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 関節運動学 | 30 | 山本圭彦 | 専任 |
| 専門基礎 | 人体の機能と構造 及び心身の発達 | 人間発達学 | 15 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 臨床心理学 | 15 | 武田未央 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 病理学 | 8 | 大原浩貴 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 内科学 | 30 | 澄川学、狩野卓夫、井上貴雄、 大内武、高瀬裕史、長坂行博、 山野井彰、青木耕 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 老年学 | 8 | 木谷光博、松井龍吉 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 整形外科学 | 30 | 大塚哲也、米井徹、上村篤史、 小川慎也、柿丸裕之、吉田翔太 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 神経内科学 | 15 | 木谷光博、松井龍吉 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 中枢神経障害学 | 15 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 小児科学 | 8 | 中島匡博、安藤幸典 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 精神医学 | 15 | 石川慎二 | 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | リハビリテーション医学 (薬理・栄養含) | 30 | 青木耕、中牟田祐典、山本健 馬庭壮吉、西園憲郎、永戸ゆうこ | 専任 兼任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 画像診断学 | 15 | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門基礎 | 疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 | 救命医学 | 15 | 栗原健司郎 | 兼任 |
| 専門基礎 | 保健医療福祉と リハビリテーションの理念 | リハビリテーション概論 | 15 | 石川慎二 石原直樹、栗林一樹 | 専任 兼任 |

| | | | | | |
|------|-------------------------|--------------|----|------------------------------------|----------|
| 専門基礎 | 保健医療福祉と リハビリテーションの理念 | 社会保障学 | 15 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 基礎理学療法学 | 理学療法概論 | 15 | 淵上千年 | 専任 |
| 専門 | 基礎理学療法学 | 理学療法研究法 | 30 | 山本圭彦 | 専任 |
| 専門 | 理学療法管理学 | 理学療法管理運営論 | 15 | 淵上千年 | 専任 |
| 専門 | 理学療法評価学 | 基礎理学療法評価学 | 30 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 理学療法評価学 | 理学療法評価演習 | 30 | 中牟田祐典 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 理学療法評価学 | 疾患別理学療法演習 | 30 | 山本圭彦 | 専任 |
| 専門 | 理学療法評価学 | クリニカルリーズニング論 | 30 | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門 | 理学療法評価学 | 動作分析学 | 30 | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 基礎運動療法 | 30 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 徒手療法 | 30 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 基礎物理療法 | 15 | 吉川幸次郎 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 物理療法演習 | 15 | 物理療法演習 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | ADL論 | 15 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 装具学 | 15 | 石原直樹 中村宣郎、大森浩己 | 専任 兼任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 義肢学 | 15 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 中枢神経治療学 | 15 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 中枢神経治療学演習 | 30 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 運動器疾患治療学 | 15 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 運動器疾患治療学演習 | 30 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 脊髄損傷治療学 | 30 | 吉川幸次郎 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 小児疾患系治療学 | 15 | 石原直樹 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 内部障害治療学 | 30 | 淵上千年 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 神経筋疾患治療学 | 15 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | 臨床学 | 30 | 中牟田祐典、山本圭彦、吉川幸次郎 三宅綾子、石原直樹、淵上千年 | 専任 |
| 専門 | 理学療法治療学 | スポーツ健康増進学 | 15 | 山本圭彦 | 専任 |
| 専門 | 地域理学療法学 | 地域理学療法学 | 15 | 淵上千年 | 専任 |
| 専門 | 地域理学療法学 | 生活環境学 | 15 | 三宅綾子 | 専任 |
| 専門 | 臨床実習 | 臨床見学実習 | | 中牟田祐典 | 専任 |

| | | | | | |
|----|------|--------|--|-------|----|
| 専門 | 臨床実習 | 臨床評価実習 | | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門 | 臨床実習 | 臨床地域実習 | | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門 | 臨床実習 | 臨床短期実習 | | 中牟田祐典 | 専任 |
| 専門 | 臨床実習 | 臨床総合実習 | | 中牟田祐典 | 専任 |

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。 | 3 |
| | 養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。 | 2 |
| | 養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。 | 1 |

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | 4 |
| | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、 <u>大半</u> の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | 3 |
| | シラバスの記載が十分ではない。 | 2 |
| | シラバスが作成されていない。 | 1 |

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をしている。 | 4 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむねしている。 | 3 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を <u>十分に</u> 実施していない。 | 2 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。 | 1 |

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---------------------------|----|
| ○ | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。 | 4 |
| | 講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。 | 3 |
| | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。 | 2 |
| | 講義と関連の実習が連動して実施されていない。 | 1 |

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

| 臨床実習の見学又は実践する範囲 | 開講時期 | 関連講義名 | 開講時期 |
|-----------------------------|------|---------|------|
| 医療機関、在宅分野の見学 | 1年後期 | 理学療法概論 | 1年前期 |
| 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの見学 | 3年後期 | 地域理学療法学 | 3年前期 |
| | | | |
| | | | |

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。 | 3 |
| | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で <u>一部</u> の臨床実習が実施されている。 | 2 |
| ○ | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。 | 1 |

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|------------------------------|----|
| ○ | 適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。 | 4 |
| | 適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。 | 3 |

| | | |
|--|------------------------------|---|
| | 適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。 | 2 |
| | 適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。 | 1 |

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--------------------------------------|----|
| ○ | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。 | 3 |
| | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。 | 2 |
| | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。 | 1 |

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|-------------------------------|----|
| ○ | 自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。 | 3 |
| | 自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。 | 2 |
| | 自己点検・評価の体制がない。 | 1 |

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

| | |
|--------------|---|
| 自己点検・評価組織名 | 自己点検・評価委員会 |
| 委員名（委員長） | 青木 耕（教務部長） |
| 組織の開催頻度 | 年1回 |
| 組織の取り組み内容 | 年1回委員会において点検・評価項目について検証し、不備があれば改善に努める。 |
| | |
| | |
| 自己点検・評価結果の公表 | 学校ホームページ（ https://www.rcs.ac.jp/page9565/ ） |

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。 | 3 |
| | シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。 | 2 |
| | シラバス記載内容を改善する仕組みがない。 | 1 |

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

| | | |
|-------------|-----------|--|
| 該当する 仕組み | 名称 | 教務運営会議 |
| | 委員構成等 | 教務部長、教務課長、理学療法学科長、作業療法学科長、言語聴覚学科長、教務事務主任 |
| | 改善の仕組みの実際 | 基本的に隔週で実施。12月頃より次年度シラバスの検討を実施。 |

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

| |
|---|
| 自己点検・自己評価の結果をふまえ、第三者評価委員会からの提言より改善策を検討する。 |
|---|